

スイカ	五七五貫	〇・一錢	反	當	單	價	ミワタ	二	三	〇・九〇
サトイモ	三三七	〇・一四	一	九〇貫	〇・六三錢	コリヤナギ	四	三	〇・二四	
ハナユリ	一、六三二個	〇・〇二	〇・八〇七合	二七・四六	ラミ	一	二	一・八八		
ラクカセイ	二七九升	〇・一〇	二九貫	一・八三	キ	二	一四	〇・三八		
工藝農産物			五二	一・〇八	ヘチマ	一	一、三六〇個	〇・〇二		
			ハツカ	八九	〇・三三	ハアイ	四	六貫	〇・五九	

最近の統計

縣下の水稻作況

「稍不良」の成績

八月十五日現在調査發表

昭和十三年の縣下水稻作況は苗代期は氣候概して適順であつたので苗齡は進んだが、移植後の氣候は低溫寡照の爲め分蘗の進展不良の處へ六月二十八日以降に於ける豪雨に依つて著しく生育を阻害せられた。八月十五日現在で縣統計課で調

査した結果は縣下を通じて稍不良減收五分以内の見込ではあるが尙減收を豫想せられて居る。各都市別の作況は左の如くである。

郡市名	平均作況	増收五分ヲ越スル見込ノモノ	増收五分以内見込ノモノ	普通作況見込見込ノモノ	減收五分以内見込ノモノ	減收五分以上見込ノモノ
水戸	不良	1	1	1	1	1

東茨城	稍不良	1
西茨城	稍不良	1
那珂	稍不良	1
久慈	稍不良	1
多賀	普通	1
鹿嶋	普通	1
行方	普通	1
新治	稍不良	1
新治	稍不良	1
眞壁	稍不良	1
結城	稍不良	1
猿島	稍不良	1
北相馬	稍不良	1
合計	稍不良	2

東茨城	3	1	1	1	1	1
西茨城	1	1	1	1	1	1
那珂	1	1	1	1	1	1
久慈	1	1	1	1	1	1
多賀	1	1	1	1	1	1
鹿嶋	1	1	1	1	1	1
行方	1	1	1	1	1	1
新治	1	1	1	1	1	1
新治	1	1	1	1	1	1
眞壁	1	1	1	1	1	1
結城	1	1	1	1	1	1
猿島	1	1	1	1	1	1
北相馬	1	1	1	1	1	1
合計	3	1	1	1	1	1

全國は普通

尙八月二十七日農林大臣官房統計課發表に依る本年の水稻作況は苗代時期の氣候順調で苗の生育良好だつたが移植期の前後に亘り曇雨天持續し低溫寡照で稲の生育が阻害せられたのみならず六月下旬乃至七月上旬に於ける豪雨に因り關東、東海並に關西方面に水害を見るに至り、其の後七月中旬に至

り天候の回復により生育促進せられ偶々八月當初に於て東海關西方面の一部に再び水害の發生を見たる地方があつたが其の後に於ける天候一般に適順で生育順調なるを得た。然し水害地方に於ては未だ充分作柄の回復を見ず、又北陸地方其他各地に稻熱病、螟蟲等の發生を見たものがあつて八月十五日現在の水稻作況は全國的に之を觀て「普通」の狀況に在る如し

北海	東北區	關東區	北陸區	東山區	東海區
青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島	茨城 栃木 群馬 千代田 東京 神奈川	新潟 富山 石川 福井	山梨 長野 岐阜 愛知 三重 靜岡	山梨 長野 岐阜 愛知 三重 靜岡	山梨 長野 岐阜 愛知 三重 靜岡
良	稍普 稍普 稍普 稍普 稍普 稍普	稍不 稍不 稍不 稍不 稍不 稍不	稍不 稍不 稍不 稍不 稍不 稍不	稍不 稍不 稍不 稍不 稍不 稍不	稍不 稍不 稍不 稍不 稍不 稍不
通	通 通 通 通 通 通	通 通 通 通 通 通	通 通 通 通 通 通	通 通 通 通 通 通	通 通 通 通 通 通

近畿區	中國區	四國區	九州區	沖繩
滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	鳥取 島根 岡山 廣島 山口	德島 香川 愛媛 高知	福岡 佐賀 長崎 熊本 鹿兒島 宮崎	那霸
稍不 稍不 稍不 稍不 稍不 稍不	普 普 普 普 普 普	普 普 普 普 普 普	稍不 稍不 稍不 稍不 稍不 稍不	稍 良
通 通 通 通 通 通	通 通 通 通 通 通	通 通 通 通 通 通	通 通 通 通 通 通	良

減收は見たが

全國の首位を確保

小麥王國茨城の貫録

縣統計課が本月五日午後四時公表した昭和十三年麥收穫高調査によれば、本年の作付反別は大麥三萬五千三百八十三町九反歩(六分八厘増)稈麥二千六百四十三町四反歩(四分七厘減)小麥五萬三千八百二十七町二反歩(零分四厘増)燕麥四町五反歩(五割五分二厘増)計九萬一千八百五十九町歩(一分六厘増)で本年の收穫高及び其の前年との比較は

大麥	七二六、六一八石	八〇、〇四六石	九分九厘減
稈麥	二四、三一	七、四五六	一割七分九厘減
小麥	六五二、三九三	七一、七九八	九分九厘減
燕麥	四一	一三	四割六分四厘増
計	一、四一三、三六三	一五九、二八七	一割一厘減

本年收穫高 前年收穫高 比較増減

春季になつて氣候が概して順調だったので作況好轉を見たが結實期に於ける不順な氣候が登熟を害し、且つ病虫の發生を見たのと、六月中下旬の霖雨に加ふるに稀有の洪水を蒙り流失及び發芽腐敗したものなどが多かつたので大麥、稈麥、小麥と總計ともに減收を見たが、農林大臣官房統計課が發表した全國の麥收穫高から見ると大麥は埼玉縣の七十五萬一千三十四石が首位をため、茨城縣は七百二十六萬六千六百八十八石で第二位となり、稈麥は三萬四千三百一十一石で全國第二十四位であるが、小麥は六十五萬二千三百九十三石で斷然首位を占め、大麥、稈麥、小麥の總計に於ても全國第一位であり、麥類生産縣茨城の盛名を本年も亦確保した譯である。本年作付反別、收穫高及び前年との對比増減は左の如くである。(△印は減收)